この例は、学年を単位とし、教授組織については、1・2年で合併授業を考え、3・4年で合併授業や複数授業を行なうようにし、5・6年では、さらに交換授業を取り入れて教育効果を高めようとする。事務組織についても、学年ティームで担当するが、時には業務を3大別し、低・中・高学年で調整を取りながら協力遂行することも考えられる。運営組織については、学年主任会を重視し、企画・調整・実施・評価と体系的活動の推進力となるよう配慮する。特にこの機構では、交換授業の改善として、単なる教科の特性を生かした教科の分担でなく、複数による分担で教育の質を高めようとするものである。

7　教授活動の編成

教授組織による授業は、学級担任の長所のうえに立って、教師の特性を生かした教科の分担、個別化、集団化としての複数授業・合併授業を取り入れ、集大成の教育効果を期待するものである。

次にその一例をあげることにする。

第6表　小規模校の教授編成

学年	担任	分担教科	自学級	教科担任					複数	同時（合併）	合計	担当時間
				社	理	音	体	家	音	体		
1	A		国社算理音図体道特 7 2 3 2 2 3 2 1 1						A B 1	A B C G 1	25	27
2	B		9 2 4 2 1 2 2 1 1						A B 1		26	27
3	C		8 3 5 3 1 2 2 1 1						A C 1		28	28
4	D	理	国算理図体道特 8 6 3 2 2 1 1	F 4		G 1			D G 1	D E F G 1	30	29
5	E	家体	国社算図家体道特 7 4 6 2 2 2 1 1		D 4	G 1			E G 1		32	31
6	F	社	国社算理図道特 7 4 6 4 2 1 1			G 1	E 2	E 2	F G 1		32	31
	G	音体										8

小規模校においては、少人数学級が多く、集団性による教育効果が問題になり、教材の内容によっては、本質にふれがたい場合もあるので合併授業が考えられ、かつ、社会的経験面から資料の活用がたいせつになり、複数授業が要求されよう。交換授業については、ティーム内で複数の分担になるようにする。同時同教科による弾力的な合併授業は体育のほかに図工・音楽が考えられようし、複数授業については、音楽のほかに高学年の社会・理科が取り入れられよう。